

明治・大正・昭和前期に刊行された貴重な辞典類を選定・復刻!!
文学研究や歴史研究等のレファレンスに最有用な資料、第4弾。

文学・言語研究資料シリーズ3

近現代日本語辞典選集

【モダン語辞典・事典・用語編】

第4回配本 全3巻

解題：澤 正宏（福島大学名誉教授）

●体裁：B5判・上製・約1600頁 ISBN978-4-910672-52-6 C3381

●定価：本体90,000円



クロスカルチャー出版

文学・言語研究資料シリーズ3 **近現代日本語辞典選集**

【モダン語辞典・事典・用語編】第4回配本 全3巻

■解題 澤 正宏（福島大学名誉教授） ■体裁 B5判・上製・総約1600頁 ISBN978-4-910672-52-6 C3381

■巻構成 ●第12巻 『AN AINU—ENGLISH—JAPANESE DICTIONARY』John Batchelor著（教文館、大正15年8月5日発行）第3版。
[補遺]『APPENDIX TO THE THIRD EDITION OF DR.BATCHELOR'S AINU DICTIONARY,1932』

●第13巻 『博物辞典』藤本治義、岡田彌一郎、三輪知雄編（三省堂、昭和13年2月15日発行）初版。
●第14巻 『明治屋食品辞典』上巻 山本千代喜編（明治屋東京支店、昭和10年6月1日発行）再版。
『明治屋食品辞典』中巻 山本千代喜編（明治屋東京支店、昭和10年3月16日発行）初版。
『明治屋食品辞典』下巻 山本千代喜編（明治屋東京支店、昭和10年12月20日発行）初版。

文学・言語研究資料シリーズ3 **近現代日本語辞典選集**

【モダン語辞典・事典・用語編】第3回配本 全3巻

■解題 澤 正宏（福島大学名誉教授） ■体裁 B5判・上製・総約1800頁 ISBN978-4-910672-06-9

■巻構成 ●第9巻 『新詩辞典』新詩會編纂（東京・参文舎、大阪・積文社發行所、明治39年5月5日発行）初版。

『新文藝辞典』菊池寛著（誠文堂發行所、昭和7年9月20日発行）。初版。

『大東亞時局語』朝日新聞社編（編集兼發行人・山本地榮、株式會社朝日新聞社發行所、昭和19年2月5日発行）初版。

●第10巻、第11巻 『故事熟語大辞典』（廣洲）池田四郎次郎編著（東京實文館發行所、大正15年9月20日発行）。60版（初版は大正2年10月5日発行）。

文学・言語研究資料シリーズ3 **近現代日本語辞典選集**

【モダン語辞典・事典・用語編】第2回配本 全4巻

■解題 澤 正宏（福島大学名誉教授） ■体裁 B5判・上製・総約2000頁 ■揃定価 本体120,000円＋税 ISBN978-4-908823-86-2 C3381

■巻構成 ●第5巻 『袖珍新聞語辞典』竹内猷郎編（東京堂、大正8年6月1日発行）初版。

『通人語辞典』勝屋英造編著（二松堂書店、大正11年11月15日発行）初版。

●第6巻 『現代新語辞典』現代編輯局編（大日本雄辯會講談社、昭和6年1月1日発行）初版。

『特高新辞典』横溝光暉編著（松華堂書店、昭和4年5月28日発行）訂正四版。

『隠語辞典 新聞語辞典 附録』栗田書店編輯部編（栗田書店、昭和13年4月25日発行）十四版。

『日本性的風俗辞典 全』佐藤紅霞編著（文藝資料研究會、昭和4年6月20日発行）非賣品、初版。

●第7巻 『猥褻廢語辞典』宮武外骨編著（自費出版、大正14年2月10日発行）。訂正再版。

『日本性語大辞典』宮本 良（桃源堂主人）編著（文藝資料研究會編輯部、昭和3年8月25日発行）初版。

『かくし言葉の字引』宮本光玄編著（誠文堂、昭和4年12月20日）改訂版。

『チョークレ』南霞濃編著（文献研究會、昭和5年6月30日発行）初版。

●第8巻 『世界性慾學辞典』佐藤紅霞編著（弘文社、昭和8年5月15日発行）普及版、初版。

『隠語構成様式並に其語集』樋口 榮編著（警察協會大阪支部、昭和10年6月10日発行）非賣品、初版。

『性行辞典』友田宜剛編著（武揚堂、昭和17年6月15日発行）九版。

文学・言語研究資料シリーズ3 **近現代日本語辞典選集**

【モダン語辞典・事典・用語編】第1回配本 全4巻

■解題 澤 正宏（福島大学名誉教授） ■体裁 B5判・上製・総約2500頁 ■揃定価 本体120,000円＋税 ISBN978-4-908823-74-9 C3381

■巻構成 ●第1巻 『近代詩用語辞典』河合醉茗編著（紅玉堂書店、大正13年10月5日発行）初版。

『プロレタリア文藝辞典』山田清三郎、川口浩編著（白揚社、昭和5年8月25日発行）初版。

『文學新語小辞典』生田長江編著（新潮社、大正6年5月15日発行）第18版。

『モダン語辞典』鶴沼直編著（誠文堂、昭和6年2月28日発行）第45版。

『現代術語辞典』『毎日常鑑』附録、大阪毎日新聞社、東京日日新聞社編纂（大阪毎日新聞社、東京日日新聞社、昭和6年10月1日発行）初版。

●第2巻 『モダン流行語辞典』麹町幸二編著、喜多壯一郎（早大教授）監修（実業之日本社、昭和8年1月8日発行）2版。

『増訂 哲学辞典 全』朝永三十郎（文学博士）編著（東京宝文館、大正8年10月10日発行）。増訂8版。

『最新 市場用語解説 別輯 英米市場用語詳解』中外商業新報社市場部編（森山書店、昭和7年12月7日発行）再版。

●第3巻 『外来語辞典』あらかわ そうべゑ編著（富山房、昭和16年6月10日発行）初版。

●第4巻 『英語から生れた 現代語辞典』英文大阪毎日学習号編輯局編（大阪出版社、昭和5年9月8日発行）増補11版。

〈おすすめ先〉近現代文学研究者、日本語史研究者、近現代史研究者、大学図書館、公共図書館

好評既刊 文学・言語研究資料シリーズ 1 2

編集・解説：李 長波 近代日本語教科書選集 全3回配本 全14巻 揃定価 本体370,000円＋税

編集・解説：澤 正宏 西脇順三郎研究資料集 全2回配本 全 6巻 揃定価 本体178,000円＋税

クロスカルチャー出版

学術出版

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2-7-6

TEL：03-5577-6707 FAX：03-5577-6708

http://crosscul.com

取扱書店

内容見本

福島大学名誉教授 澤 正宏

第一回配本では文学、哲学、新語、モダン語、外来語に焦点を当てて、それらを説明・解説している資料を復刻しました。第二回配本では新語、流行語の他に、庶民の生活文化の深層にある風俗や隠語や性に関わる貴重な資料を復刻しました。第三回配本では、既刊の第一、二回配本の資料を補うかたちで、日本に口語自由詩が台頭してきた時期の近代詩の辞典、戦時下での思想弾圧が最も強化された時期の、外来語を多く採り入れた文芸辞典、さらに、第二次世界大戦末期の、日本が侵略していたアジア諸国と日本軍との実態などを解説した資料、さらに、欧米からの外来語とは対照的な、故事熟語の集大成的な資料を刊行しました。

今回、第四回配本として刊行された『AN ANU—ENGLISH—JAPANESE DICTIONARY』及び「補遺」[APPENDIX TO THE THIRD EDITION OF DR. BATCHELOR'S ANU DICTIONARY, 1932]、『博物辞典』、『明治屋食品辞典』(全三冊)は、いずれも日本における言語文化研究にとっては貴重な資料である。それはアイヌ語継承者が少なくなっていく現実、年々、凄まじい速度で地球規模の自然破壊が進行していく現実、絶滅したり、絶滅危惧種が増えて行く現実、ますます「食文化」に関心がもたれるなか、食品に関する安全面の問題として、化学肥料や環境汚染の問題が懸念される現実などを考えれば、充分に理解の及ぶところである。

② 「アイヌ語—日本語」(辞典)研究の古典である、ジョン・バチエラー著の『ANU—ENGLISH—JAPANESE DICTIONARY』は、初版が一八八九(明治二二)年に刊行されたのだが、語彙数からみて、今回復刻した「増補改訂第三版」のほうが研究に資すると考えて、この版を復刻した。「アイヌ語—日本語—英語」辞典であり、正確性、訂正などを含めて、現代のアイヌ語研究には必須の資料である。アイヌ語の文法の解説もあり、一九二六年(大正時代末)現在で立項語彙数は約一万七五〇〇語である。この辞典の刊行後(一九三二年)に語彙数全九〇七語を追加した「補遺」版が出たのでこの資料も復刻した。

③ 二十一世紀になって、最新の博物辞典が刊行されているが、今回復刻の『博物辞典』は、日中戦争中の一九三八(昭和十三)年発行であり、現代とは八六年の期間がある。この間、とくに戦後以降の科学の発達(遺伝子研究、遺跡、化石などの発掘、望遠鏡、電子顕微鏡の進化など)は目覚ましく、戦時中の『博物辞典』は書き直し、訂正しなければならない事項は多いのだが、博物研究史としては、今回復刻のこの辞典は貴重な資料となる。とくに、最新の博物辞典に立項されなかった事項などは、歴史の資料として、また過去にあった「言葉」、「もの」として記録しておきたいので復刻した。

④ 古代ローマの書物などをはじめとして、いつの時代も人間の「食」への関心は高い。今回復刻の戦時下で発行された全三巻にわたる『明治屋食品辞典』は、収録語彙数が全三七五語で、食品と飲み物の辞典として出版された。日本は勿論、世界の「食」の文献を踏まえたり、食品の発生、食品名の語源などをたずねたり、世界各国の食品名を紹介したりと学術的な特色もある。主な食材の他、料理名、調味料、オイル、缶詰、菓子、嗜好品(珈琲、ジュースなど)にも言及し、世界の各種のアルコール類(酒)の解説に特色を出している。

▲第13卷『博物辭典』

アイヌ語辞典、博物辞典、食品辞典。

I. INTRODUCTION.

§ 1. WORKS ON AINU GRAMMAR

In the year A.D. 1851 Dr. A. Pfizmaier of Vienna published a small work called *Untersuchungen über den Bau der Ainu-sprache*.¹ This appears to have been the first attempt ever made to submit the Ainu language to a grammatical analysis. This work was founded on a small vocabulary collected by the Japanese and called *Moshiogwa*.² I have studied the book through very carefully, testing its contents word by word throughout among the Ainu themselves, the result being that I fully agree with Prof. Chamberlain who writes of it as follows:³

"Considering that this grammar was finished on little else than one imperfectly printed Japanese vocabulary, the '*Moshiogwa*,' the results obtained by the Austrian savant are truly marvellous. One only regrets, when perusing it, that a fraction

KAM DICTIONARY

Kambe, カムベ, 水産, 例へば, カンペルカ
カ, 水に上. n. The water.
Asi—Kambe-kurika, "on the water."
kambi, カムビ, 紙, 手紙. n. Paper.
A letter.
mbi-chikapa, カムビチカパ, 風船ノ
紙 (紙を以て). n. A kite.
mbi-nuyey, カムビヌイェ, 書. v. to
write. To write a letter.
mbi-nuyey-gura, カムビヌイェグル, 紙
ノ紙. n. A scribble.
mbi-nuyey, カムビヌイェ, 筆. n.
A pen.
mbi-nuyey, カムビヌイェ, アメモ.
Its nib. n. See *Kakoi-kakoi*.
tsu, カムビツ, 筆. n. A pen.
Asi—Kambi-tsuh-oretsu, "to
be a book."

amachi, カムダチ, 鰐. n. Rice
and otherwise prepared for
purposes. Mal.
tsu-sak-gura, カムダチサカダ
ツ, n. A fish.
ven, カムエツウツ, 鱖魚.
u. To be eaten by eating
fish. Mal.
tsu, カムス, 鰐. u. To help.

tsu, 這へて 爲メに不潔ノ物
ヲ食ハスモノ. n. One
who makes an
other eat filth or the
filth of an animal out of spite.
tsu-guro-gura.
1. 7. or Kamuyashi,
食(得)メノシノ人. n. A
man. n. Polynesian snake.
dean, カムシ, 魔人.
tsu, 魔人. n.
tsu, カムシ, カムシシム, 魔
人. n. A demon.

Kamua, カンマ, 女兒. n.
Syn.: Mattachik.
Kamui, カムイ, 仕置メノ魔物.
A running sore. Syphilis.
Kampara, カムパ, 外方. as
out. Outside of.
Kamparo, カムパロ, 誰. n.
of anything.
Kamu, カム, 上ニ爲ルモノ,
and, adj. To be placed in
upon a pot. To cover
shadow.
Kamu, カム, 上. as. adu. On.
Upper. Syn.: Ka. Kam.
Kamui, カムイ, 熊. n.
bear. A little applied
goat, good, important
bad, as a prefix to
animals and men.
(1). Used as a prefix
regarded as an adjective.
Kamui rera, "a great
Kamui nomno, "a bear
Kamui miki, "a
master." (11). Used
mui may be regarded
Thus:—Abe kamui, "a
kamui, "wind god."
"sea gods." Nitte ka
Kamui-shikaripa, 熊ノ
ツ, カムイシカラ
illa Midendendip.
Apsu.
Kamui-amam, カムイ
ツ, ノ. n. Bebebi
tsu, ノ. 18. Also u.
of bamboo, which is
Kamui-shikar.
Dog salmon. Syn.

Kar.
所長
parents
Syn.: I.
Kotango.
Kotanshi.
town.
Kotanshi.
コタンシ.
官位.
times given
has given
Kotanshi.
pot-sch.

di Medici (一五一九～一五八九。フロンツ) の名家メデチ家の出、佛王アンリ二世の妃) が一五五〇年佛國へ傳へた。此のウォーターアイスからアイスクリームへ進化したのである。一七七四年にはアイスクリームが巴里では一般に知られてゐた。佛國より英國へ、更に米國へ傳つた。一八五一年米國バブルモアの牛乳商ヤコブアツセル氏 Buzzell がバブルモアの滯留處分の方法としてアイスクリーム製造業を創めたのが米國に於ける大企業化の先驅だ。同國の斯業は世界一大規模。〔星忠太郎氏：趣味の食業化學—Ice Cream Trade Journal〕〔菓子通〕。米國一年消費量二億五千萬ガロン。一人一年當り二ガロン(五升餘)の消費。品質の取締の嚴重なことも米國が一等で、アイスクリームは牛乳の脂肪分 fat of milk の含有量に

食品辞典。

の地を賜ひ、正保元年三月漁家を建て、出身地
佃村に因んで佃島と名づけた〔日本物産の由來〕。
ツクダは作り田の略〔言海〕。

佃煮の緣起。(一)江戸城堀ノ口錢龜橋の下に
佃の漁船二艘づつ繋ぎ、夜中簾を焚き網を下し
た。其の獲た小魚を安政五年春の頃、吳服町の
稻荷新道と云ふ處で、春柳お助と云ふ者が、煮
て賣り出し、佃煮と名づけた。これが佃煮の始
まりだ。お助八十歳に至るも猶ほ嬰孺、誠快氣
と稱した〔日本事物起源〕。

(二)攝津の佃から移住の漁民が隅田川の下流
で漁獲した沙魚(ハセ)を鹽鹹く煮付て之を
佃煮といつた。當時大坂、灘、紀、勢、尾、三
遠等諸國から樽船菱垣の來船があり、江戸の
問屋で小舟で出賣した。此の際、住吉神社で祈
ひ、神主の家で神酒を出すとき、佃煮を肴に
したもの。右小舟の辨當の仕出屋の茅場町の
勢太さいふ料理茶屋で佃島神社直傳の佃煮を
造じ、市中へ賣出した、是が元祖〔食道樂、
和六年二月號江戸趣味漫語の、高岸拓児氏
の佃煮の種類〕。(一)ハセ(沙魚、鰯)一聽セ
海〕。又は自らハジクルの意〔大言海〕。ダ
セ最も佳味だ。

▶第14卷『明治屋食品辭典』上卷

麥 酒 系 譜

	（キリン）	英和シヤサケ	キリンビール	
	（サツボロ）	スリダンペー	ジャパンワイリー	
		開拓のビール	サッポロビール	
	（アサヒ）	黒田酒造	札幌麥酒醸造 アサヒビール	
	（エビス）		大政麥酒	
	（ユニオン）（カブト）		エビスビール	
	（サクラ）		九三ビール	
			成田酒造	
（カスケード）（オウガ）			カブトビール	
			日本第一	
			加賀麥酒	
			サクラビール	
			牡丹麥酒	
			富陽麥酒	
			カスケード	
			オウガ	
			日英醸造	
			密田	
			京信酒造	
			大日本麥酒會社	
			ユニオン	
			日本麥酒株式	
			大日本	

▲第14卷『明治屋食品辭典』中卷

▶第14卷『明治屋食品辭典』上卷